

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市南中学校	校長氏名	藤川 要造	生徒指導主事氏名	波止元 貴士
-----	-------------	------	-------	----------	--------

## 取組事例名 『体育祭』

## 取組のねらい『キーワード つながり』

5月にある体育祭の取組を通して、学級・学年の横のつながりを深めるとともに、縦割りで取組を通して学年を越えた生徒同士のつながりを育む。

## 取組の具体的内容『キーワード 縦割り交流』

今年度から縦割りチームごとに入場行進をすることにし、その練習を3年生中心に行い、学年を越えた教え合いやアドバイスができる時間を確保した。また、縦割りチームごとの得点・順位も出すようにし、入場行進も得点に加えた。学年全体種目を固定化することで、種目のポイントやアドバイスを先輩から後輩に教える姿が見られた。本番では縦割りチームで行う入場行進はもちろん、他学年の競技も一生懸命応援しており、縦割りでの交流が深まった。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード 3年生をリーダーとして』

体育祭実行委員会を組織し、縦割りの取組の中心として実行委員が動いた。なかでも3年生の実行委員は、チームリーダーとして入場行進の練習を計画し、どのようにすれば行進がそろおうのかを考え、チームに提案しながら実践した。どのチームも完成度の高い行進ができ、3年生のリーダーも充実感を感じていた。

課題としては次年度につなげるためにも2年生実行委員の役割を明確にし、3年生とともに練習に取り組ませることができればよかった。



## 取組の成果（効果）『キーワード 所属感・連帯感』

年度当初から体育祭に向けて取り組むため、学級・学年の人間関係の構築につながっている。さらに縦割りでの活動を仕組むことによって、チームへの所属感や学年を越えた連帯感を深めることができた。また、年度当初から3年生がリーダー学年としての自覚を持てるようになった。その結果、文化祭での合唱の取組においても、自発的な縦割りでの交流を図られ、3年生が後輩にアドバイスする場面が見られるようになった。



## 今後の展開『キーワード 定着と発展』

今年度始めた体育祭の縦割りの取組が継続的に発展していけるよう、次年度に向けた計画を検討していく必要がある。また、縦割りでの活動が定着していけるよう、文化祭だけでなく、本校で取り組んでいる無言清掃などの他の取組や、小中連携の取組にも取り組んでいきたい。

「文化祭縦割り交流会」



「無言清掃」



## 他校へのアドバイス『キーワード 長期的な見通し』

新たな取組が長期的に継続・発展していけるよう、行事の場面だけでなく、日々の活動にも取り組んでいけるように教員の意識をそろえ、見通しを持って取り組む必要があると感じる。